

第30回定期中央本部大会 上村書記長 総括答弁



大阪北部地震、西日本豪雨直後の開催となった第30回定期中央本部大会。被災された組合員、地域の方々、そして酷暑の中、復旧作業に日々奮闘している、グループ労組を含めた仲間の皆さんに対して、思いを馳せることができた素晴らしい大会であった。

また、本社総支部が初の準備地本となった今大会では、託児所が常設されるなど、新たな試みも行われた。本大会を作り上げて頂いた。

西日本エリアでこれほど大きな被害があったにもかかわらず、東京との温度差を感じたのは私だけではないと

契約社員が、任期満了で、みなさんの職場から「お世話になりました」と去っていく。徒労感というか、やるせない気持ちになる。この契約社員の生活をきちんと守る、保証する、ということも含めて、大胆に提案をしながら、方向性を出していききたい。

江上間接部会長

階から、時間が経つと、働く環境や設備の実効性や男女の比率も変わり、改めて「設備が実情と合っているか」「どの程度足りないのか」が問題となる。

弥栄医療部会長

◆在来線からの新幹線の社員任用は、是非はともかく、社員への意識づけをきちんとすべきである。

◆出向社員の医適は、出向後に現場に戻るメリットがあると思うが、セクターと連携して調査検討させていっていただく。

山中工務部会長

◆災害対応についての意見集約の要望を聞いています。是非ともまとめたい。

◆超勤、年休、フレックスは、まず業務として何をしないといけないのかという議論がな



◆携帯用特殊信号発光器について、当初は3月期の導入を予定していたが、納期が遅れ、7月期の導入となった。赤旗と併用する案もあったが、混乱するおそれがあったことから、全ての箇所に揃う7月からの使用開始となった。

◆工務系統のパートナー会社の人材確保が難しい。仕事の仕組みの見直しや業務の発注の仕方の工夫な

◆作業責任者手当は、ずっと100円。刑事事件の責任を取らされるくらいなら、責任者を辞めたいという声があるほどである。

◆新幹線の代替輸送により、お客様で、すでに一杯のこと。社員が代用証を持つて乗るということにはならない。

◆大規模災害について、申し入れを提出。教訓にできる議論をしていこう。

◆人間ドック7割を目指すというながら、3割の現状。JR東日本、東海では7〜8割。可能な限り、大阪鉄道病院やJR広島病院で受診できるように環境を作っていかないと。労働協約などで議論をしていこう。

被災地・被災者に思いを重ね

いた代議員・傍聴者、準備地本の皆さんに感謝申し上げます。

1 自然災害について

まずは、大阪北部地震、西日本豪雨をはじめとする自然災害に対して、どう備え、立ち向かっていくかという点について申述べたい。今回感じたことは、西日本豪雨の最中、テレビで

改めて提起する。支援カンパを含めて、西日本を覆う暗雲を、西日本の交通インフラを担う私たちが取り払おうではないか。この難局を全組合員一丸となって乗り越えることを確認したい。

今回の地震、豪雨は、奇しくも物流を含めた公共交通の重要性が再認識される機会となった。しばらくはご利用者の皆様にご不便をお掛けすると思うが、各エリアからの最大限の支援を要請する。

被災した組合員、地域の方々のために、一人千円カンパを作り上げて頂くことを要請する。

福知山線列車事故現場の慰霊施設の整備がまもなく終わる。ご遺族・ご被害者のご案内後、一般公開されることについて、是非、足を運んで頂きたい。なお、事故直後に会社全体で集めた寄付金は、この慰霊施設の一部に充当されたことを改めて報告させて頂く。

春闘後、多くの組合員の皆さんから「ありがと」という言葉を頂いた。このような経緯は正直初めだが、JR連合春闘を牽引し、ベアの積み重ねを途絶えさせることなく、公正配分を求めていく。

また、胸を張って言えることは、JR連合でベアが

グループ労組に波及しているのは、JR西日本連合、JR西労組だけだ。JR西労組越えのベアを獲得したグループ労組も複数存在する。この流れも来春闘にしっかりと繋げていこう。

2 安全について

福知山線列車事故現場の慰霊施設の整備がまもなく終わる。ご遺族・ご被害者のご案内後、一般公開されることについて、是非、足を運んで頂きたい。なお、事故直後に会社全体で集めた寄付金は、この慰霊施設の一部に充当されたことを改めて報告させて頂く。

春闘後、多くの組合員の皆さんから「ありがと」という言葉を頂いた。このような経緯は正直初めだが、JR連合春闘を牽引し、ベアの積み重ねを途絶えさせることなく、公正配分を求めていく。

また、胸を張って言えることは、JR連合でベアが

グループ労組に波及しているのは、JR西日本連合、JR西労組だけだ。JR西労組越えのベアを獲得したグループ労組も複数存在する。この流れも来春闘にしっかりと繋げていこう。

3 春季生活闘争について

春闘後、多くの組合員の皆さんから「ありがと」という言葉を頂いた。このような経緯は正直初めだが、JR連合春闘を牽引し、ベアの積み重ねを途絶えさせることなく、公正配分を求めていく。

また、胸を張って言えることは、JR連合でベアが

グループ労組に波及しているのは、JR西日本連合、JR西労組だけだ。JR西労組越えのベアを獲得したグループ労組も複数存在する。この流れも来春闘にしっかりと繋げていこう。

また、胸を張って言えることは、JR連合でベアが

「助け合い・支えあい」の組合精神で

駅契約社員の確保が厳しい今、駅の業務体制そのものの見直しが必要だ。こ

JR連合結成もスト権を巡る対立がきっかけだ。スト権そのものを否定するものではないが、階級的闘争運

動が彼らの本質だ。だからといって、3万人もの脱退者をそのまま放置する訳にもいかない。日本の鉄道安全のためにも、JR連合への総結集・総団結への道筋をJR連合とともにつけてまいりたい。